

エコキュート

掲載製品

家庭用電気温水機器で、二酸化炭素を冷媒として用いるヒートポンプで構成するものを掲載しています。暖房用、業務用製品は対象外です。

区分

ふる保温機能有り（フルオート）/なし（セミオート・給湯専用）と貯湯容量（リットル）によって区分を行っています。

● ふる保温機能有り

フルオート 240L未満	フルオート 240L以上320L未満	フルオート 320L以上550L未満
フルオート 550L以上	フルオート 少人数	

● ふる保温機能なし

セミオート・給湯専用 240L未満	セミオート・給湯専用 240L以上320L未満	セミオート・給湯専用 320L以上550L未満
セミオート・給湯専用 550L以上	セミオート・給湯専用 少人数	

一覧表の各種表示について

● 目標年度

トップランナー基準を達成すべき年度で、エコキュートの目標年度は2017年度です。

● ラベル印刷

省エネラベリング制度を表示した省エネラベル（簡易版ラベル）を印刷できます。

エコキュートの省エネラベルは、年間目安エネルギー使用料金の表示はありません。公益社団法人全国家庭電気製品公正取引協議会が公表する電気料金目安単価は一般家庭向けの契約をもとに計算されており、主に深夜電力を使用する契約となるエコキュートの使用実態に合ったものではないことから、電気料金目安単価を用いてエコキュートの年間エネルギー使用料金を表示することは正確さを欠くとともに、価格表示の本来の目的が損なわれ消費者の信頼を失うことになりかねないためです。

● 省エネルギーラベリング制度

省エネ法で定めた省エネ性能の向上を促すための目標基準（トップランナー基準）を達成しているかどうかをラベル（省エネルギーラベル）に表示するものです。

● 省エネマーク

トップランナー基準を達成した（省エネ基準達成率100%以上）製品についてはグリーンのマーク（●e）が表示され、未達成（省エネ基準達成率100%未満）の製品についてはオレンジ色のマーク（○e）が表示されます。

● 省エネ基準達成率(%)

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準

値を、どの程度達成しているかを%で示します。エコキュートは、貯湯容量、寒冷地仕様、風呂保温機能および貯湯缶数により分けられた区分ごとに、目標基準値が設定されています。

● エネルギー消費効率

機器によって表示語が異なり、各機器毎に定められています。エコキュートはエネルギー消費効率で表します。

エコキュートは、ふる保温機能を有する場合は「年間給湯保温効率」、ふる保温機能なしの場合は「年間給湯効率」を求め、エネルギー消費効率としています。

● エネルギー消費効率の求め方

1年間に得る熱量（単位MJ）と消費電力量（単位kWh）をJIS C 9220(2011)に基づき測定し、算定式により求めた結果を小数点1桁まで表示しています。

ふる保温機能を有するもの

年間給湯保温効率 =

$$\frac{1年間に使用する出湯水が得た熱量 + 保温のために浴槽水が得た熱量 (MJ)}{1年間に必要な消費電力量 (kWh) \times 3.6}$$

ふる保温機能がないもの

年間給湯効率 =

$$\frac{1年間に使用する出湯水が得た熱量 (MJ)}{1年間に必要な消費電力量 (kWh) \times 3.6}$$

MJ（メガジュール）は発熱量の国際単位です。MJをkWhで除す場合、1kWh=3.6MJの換算ができることから、換算係数として3.6を使用しています。

● 貯湯容量(L)

製品に表示される貯湯量です。JIS C 9220(2011)「家庭用ヒートポンプ給湯機」に規定する湯水を貯蔵できる

タンクの容量を指します。

標準（4人家族用）で370～460リットル、コンパクトタイプ（単身・2人など）で150～200リットルと考えられます。

少人数世帯向けの製品は、200リットル程度の貯湯容量が一般的であることから、貯湯容量が表示されない場合もあります。

● 寒冷地仕様

寒冷地仕様は、JIS C 9220(2011)に規定する冬の寒さが厳しい地域での仕様を指します。一般地向けとは区別して設計・製造され、その評価方法も異なることからエネルギー消費効率の基準値が異なります。

● フルオート

下記の機能別に区分しています。

【フルオートタイプ】自動湯張り、足し湯、自動保温、追い炊き。

【オート・セミオート・給湯専用タイプ】自動湯張り、足し湯、その他、給湯専用タイプ等の製品があります。

フルオートはふろ保温機能があるもので、保温のために浴槽水に熱を加えることから消費電力量が他製品とは異なります。ふろ保温機能の有無によってエネルギー消費効率の測定方法、算出方法、エネルギー消費効率の基準値も異なります。

● 貯湯缶数

貯湯タンクが1つのもの（一缶式）と、設置される場所を考慮して、小容量の複数のタンクで構成するもの（多缶式）に区分しています。貯湯缶数によって保温性能が異なることからエネルギー消費効率の基準値が異なります。

少人数世帯向けの製品は、200リットル程度の貯湯容量が一般的であることから、ほとんど一缶式と考えられるため、貯湯缶数は表示されません。

● 本サイト掲載日

製品の登録日を掲載し、機種名(型番)の前に「New」を付けて、掲載日より1ヶ月表示します。並べ替え機能で新着情報を上から順に並べ替えることができます。

● 更新日

製品情報に修正が入った際の更新日を掲載し、機種名(型番)の前に「Update」を付けて、更新日より1ヶ月表示します。ただし、本サイト掲載日から1ヶ月以内の更新は、「New」が優先されます。並べ替え機能で更新日順に並べ替えることができます。

● JANコード

国際的な共通商品コードです。13桁の数字で表示し、その商品がどこの国の、どこの企業の、どの商品であるかを識別できます。

エコキュートとは

「エコキュート」という名称は関西電力の登録商標4575216号です。許諾を得て各社が使用し、広く認知されていることから、省エネ型製品情報サイトでは「エコキュート」という名称を採用しました。

トップランナー基準では「電気温水機器(ヒートポンプ給湯器)」として告示され、2013年から特定機器に指定されました。自然冷媒である二酸化炭素(CO₂)を冷媒としてヒートポンプを駆動させ、お湯を供給する家庭用給湯機器で、自然冷媒ヒートポンプ給湯器、CO₂冷媒ヒートポンプ給湯器、単にヒートポンプと称される場合もあります。ヒートポンプは「熱のポンプ(汲み上げ)」の言葉通り、熱を与えたり奪ったりする省エネ技術で、エアコンや冷蔵庫でも利用されています。

上手な選び方

家族の人数、お住まいに合った能力や機能のものを選びましょう。

エコキュートの種類

エコキュートは大きく分けてふろ保温機能のあるフルオートとその他にわかれます。ご家庭の設置状況を確認し、ライフスタイルに合った機器を選びましょう。また、地域によっては冬の寒さ適した寒冷地仕様タイプがあります。

エネルギー消費効率

同じ貯湯容量、機能の場合、エネルギー消費効率が高いほど、省エネ性が優れた機器といえます。

省エネ基準達成率

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。

エコキュートは、貯湯容量、寒冷地仕様、ふろ保温機能、貯湯缶数により分けられた区分毎に、目標基準値が設定されています。機器の貯湯容量が異なるなど、選び方によってエネルギー消費効率だけでは比較が難しい場合は、省エネ基準達成率も参考にしてください。

貯湯容量（リットル）

エコキュートは主にヒートポンプとタンクで構成され、貯湯容量が大きいほど、世帯人数が多いご家庭に適しています。適切な貯湯容量を選ぶと、湯量が不足せず、無駄なエネルギーも省き快適に利用することができます。

上手な使い方

ますます省エネ効率が高まるエコキュート。使い方しだいで電力の無駄を省くことができます。

説明書をよく読んで

製品の説明書には便利な省エネ設定や、おすすめの使い方が紹介されています。メーカーの説明書やWEBサイトを参考にしましょう。

夜間電力で割安に

エコキュートは、割安な夜間電力を利用してお湯を沸かすことができます。電力会社が提供する「時間帯別電灯」等を利用しましょう。

保温や追い炊きは控えめに

保温や追い炊きは、昼間の電気使用量が増えて効率が悪くなることもあります。

また、冷たい水から沸かし直すより、ヒートポンプを利用してお湯を作ったほうが構造的に省エネです。おふろの残り湯は上手に使いきり、お湯を張り直すほうが結局は省エネになります。

入浴は間隔をあげずに

保温や追い炊きに無駄なエネルギーを使わないよう、入浴は間隔をあげずに、おふろにはフタしてお湯が冷めないようにしましょう。